

# 比較日本学研究センター研究年報創刊号

人間文化研究科長

平野 由紀子

国際日本学——という聞き慣れない名の専攻は、平成11（1999）年に博士課程に生まれました。当時の徳丸吉彦研究科長の言では「本学のさまざまな部門で日本に関する研究をしていた教官を、新しいユニットに統合したのです」。毎年夏に開催したシンポジウムはこれまで5回と回を重ね、第6回のシンポジウムの報告は、平成16（2004）年新しく生まれた本センターの研究年報として届けられます。

今、私の前には、これまでの国際日本学シンポジウムの報告書が5冊あり、その表紙の美しい色は、紫・橙・緑・青・黄であります。表紙をみると鮮明に記憶が蘇ります。この5色の報告書は枯れることのない花束のようです。

この専攻には文学・語学・日本語教育を始め、歴史・地理・哲学・服飾美学・音楽・舞踊の方々が集まっていました。また、比較社会文化専攻とあわせ、隣接する学問領域の方々が毎回分科会をつくり、学生・助手・教官がそれぞれ力を惜しみなく提供して下さったことに深い感動を覚えました。

特に学生は留学生を含め、このシンポジウムの準備・運営に携わり非常によい経験を積みました。ここで得た出会いとネットワークは生涯の財産となるにちがいありません。

「水を発見したのは誰であるかわからないが、金魚でないことだけはたしかである。」——このユーモアは、日本研究についてもそのとおりでありました。海外の日本研究に携わる方たち、また留学生の方々の研究は、私たちに見えなかった日本を認識させるものに他ならないのです。

新しいセンターの発足によって、今後ますます国際日本学研究の広がりや深まりを期待せずにはられません。